



TIFA 機関誌 VOL.49 2021.3.15発行

Takarazuka International Friendship Association

編集：(特)宝塚市国際交流協会 広報委員会

共生社会の実現に向けての国際交流



民間大使派遣事業 中国紹介



英語サロン「ネイティブスピーカーとおしゃべり」



英語講演会「カナダに移住した日本人の歴史」



目次

年間テーマ&TIFA年間行事写真	表紙
TIFAの未来を考える会からの報告	2
事業報告から	4
やさしい日本語の取り組み	6
ホームページリニューアル&外国人支援基金寄付のお願い	裏表紙

「TIFA の未来を考える会」の発足について

「TIFA の未来を考える会」が、昨年8月に発足して、委員9名が事務局の協力を得て、毎月活発な意見交換と議論を続けています。また委員全員の会議とその下に3分科会が設けられて、よりきめ細かな検討が続けられています。

代表 木原正宣

当協会は、1988年に設立されて、30年を経過しました。その経緯や歩みは、VOL.47号の「創立30周年記念特集号2019」に詳しく、記載されています。今回の「考える会」では、最初に、できるだけ、委員の皆さんが、日頃、考えておられる、活動上の問題点や、思いを、自由、率直に述べていただき、問題を共有する手法を用いました。その結果、48項目の課題や提案が浮き彫りになってきました。現在、それらの課題を整理しながら、ひとつひとつ、問題の解決と新たな提案の実施可否を大胆かつ慎重に検討しています。

日本国内には、国際交流を掲げる多数の団体が存在しています。それぞれの団体には、設立にかかわる諸事情がありますが、その活動目的には、時代の変遷をうけて、存在意義には、様々な変化が起こっています。

たとえば、1980年代は少子高齢化、情報化、国際化が自治体を取り巻く新たな変化として、意識され、「地域の国際化」が大きなブームとなり、姉妹都市提携が新たに結ばれ、海外との交流への熱が高まりました。そして、それを実施する地域の国際交流の中心組織として、自治体のイニシアティブで設置されたのが、国際交流協会という歴史の流れがあります。TIFA もその一つではないかと思います。

その後、外国人への日本語教育の担い手や、生活相談、生活支援、異文化交流などの役割を担いながら、多数のボランティアの人たちが参加してきて、現在に至っています。一方で、毎年、約50万人もの人口減少という環境のなかで、外国人は留学生や技能実習生など若い人たちが、労働力不足の国内事情の改善に寄与して、長期滞在者も急激に増加しています。今では、外国人の働き手なしでは、企業経営や、農作業等が成り立たない状況も見られるようになっていきます。

今、増加する外国人の方々といかに良好な関係を築き、「共生社会」を実現し、この国を発展させていくかということとは、大変重要な課題となっています。また、短期滞在で、帰国するのではなく、長期滞在、出来れば、移住、移民を認める抜本的な国の政策変更も強く望まれてきています。古い歴史と独自の文化を築いてきたこの国の人々は、海外の異文化



化に対して強い関心を持つものの、直接、外国人と接するようになるのは、明治時代以降で、言葉の障壁も依然として存在します。日本の若い人たちが、海外への関心を持つことは、この国の将来にとって、大事なことです。コロナ禍では、なかなか、海外渡航も難しい状況です。できるだけ早く、以前のように、自由に海外に行けるようになればと祈念致しております。

第1分科会 — 組織改革検討グループ

「TIFA の組織を魅力あるものに」 原田永康
9年前会社を退職して、“さあ何をしよう、自分の居場

所を探そう!”と考える中、宝塚市国際交流協会(TIFA)に入会しました。TIFA では様々な国の方と触れ合い、また素晴らしいボランティア仲間と知り合いになれて、居心地の良い場所を見つける事が出来ました。TIFA に入会した当時は退職直後と言う事もあり委員会でも最年



少でありましたが、ふと気が付くと9年経ってもまだ若手、新しい仲間があまり増えていま

せん。TIFA の将来を考えると、このままでは駄目だと思いきやコロナ禍で TIFA の活動も減速している中に立ち上がった「TIFA の未来を考える会」に参画して、TIFA をより魅力ある組織にする中長期計画策定を一緒に考えてみようと考えました。

その中で第1分科会として“組織改革検討グループ”を立ち上げて、TIFA の組織をより魅力あるものに改革して、TIFA に賛同して参加して下さる仲間を増やそうと考えています。

TIFA の活動はこれからの多文化共生時代に向けて欠かせない、やりがいのある活動であり、素晴らしい仲間にも囲まれて、今でも十分に魅力ある組織なのですが、残念ながら TIFA をご存じの方はまだまだ少数派です。この「TIFA の未来を考える会」の活動を通じて少しでも宝塚市民の皆さんに TIFA の知名度が上がり、TIFA の活動に魅力を感じて、一緒にボランティア活動をしてみたいと思って頂けるような改革を進めていきたいと思ひます。また TIFA の活動でお会いできる日を楽しみにしています！

第2分科会 — 広報 PR 改革検討グループ

「TIFA のデジタル化に向けて」 藤本由利子



昨年「未来を考える会」が設立され現役世代と外国人会員の増加推進が挙げられた。その候補はどち

らもデジタルや IT を駆使している人達である。しかし TIFA はどちらかと言えばアナログ人間？又アナログを大切に？しているらしいがある。オンライン会議やリモートに対してもその傾向がみられる。今や、世界では「IT を制する者は世界を制す」。日本でも、菅首相になって初めてデジタル改革担当大臣がおかれ、漸く日本も世界への

仲間入り。日本人は島国故に培われた独自の価値観から一般人が IT 業界へ参入することへの抵抗というか、IT へのアレルギーが立ちはだかつてきた。情報漏れや未知なるものへの恐れが前面に押し出されデジタル化への戸惑いは世界から一歩遅れる要因に。しかし今やデジタル・IT に戸惑ってばかりいると世界から置いてきぼり「井の中の蛙大海を知らず」。

TIFA もここにきてデジタル化に本腰を入れ始め、HP もリニューアルされニュースレターもペーパーレス化を目指しつつある。

デジタルのマイナス面に目を向けるのではなく又デジタルに支配されるのでもなく、IT を使いこなし、デジタルの利点をどんどん活用しつつ、IT と日本の伝統文化・外国人との共生も同時に図っていかなければならないと思う。デジタル・IT と握手、受け身からアクティブにクリエイティブな人類の共生を目指しましょう。

第3分科会 — 外国人支援グループ

「検討・提案事項について」 木原正宣

次のような提案をしており、検討をしています。

1. コロナ禍の外国人支援強化策として会員からの寄付制度、不足品の相互交換制度などを提案しています。
 2. 団体・法人会員との共同事業推進の具体策として6団体にしぼり、先方への話し合いに入ることを提案しています。
 3. 外国人の入会推進策を具体的に提案しています。
 4. 外部人材(外部理事、アドバイザー等)の登用を進めるために定款55条、56条に関する細則(2)の改定をします。
- 今後も残された課題の解決策をスピーディに検討していきたいと考えています。



外国人 支援事業

～生活相談委員会からの報告～

在住外国人や海外に行く日本人に、国内外の生活に関する相談や情報を提供しようと「異文化間生活相談」を行っています。＊在住外国人の生活面

(教育・法律・住居など)の相談や日本人の留学などの相談 ＊在住外国人への生活オリエンテーション、公共施設などの紹介 ＊外国料理教室を通しての異文化相互理解 ＊外国人支援フリーマーケットなどです。

今年度は、コロナ禍の中、自国にいる日本人の私たちでも大変不安な生活を強いられています。ましてや在住外国人の方々の不安はいかばかりかと察せられます。私たちは宝塚市立国際・文化センターの相談室で、月～金 10:00～12:00・土 10:00～12:00、13:00～15:00(水曜日は休み)に生活相談を担当していますが、緊急事態宣言の発出時は対面での相談が出来なくなり、自宅待機で電話・メールでの相談となりました。

その間も、医療関係(医療機関の問い合わせや同行依頼)・特別定額給付金の申請手続き・子育て世帯の臨時特別給付金手続き・雇用保険手続き・住居確保給付金手続き・在留期間更新の申請手続きなど多くの相談が寄せられ、対応しております。早くコロナが納まってくれることを願うばかりですが、これからも随時、適切に在住外国人の皆様に寄り添って問題を解決し、気持ちよく安心して生活していけるように委員会一同努力していきます。



～日本語学習委員会からの報告～

「コロナ禍と日本語レッスン」

「マスクが手に入らない」「緊急事態宣言」…と瞬く間に混乱に陥り、日本語レッスンも4ヶ月にわたる休止を余儀なくされました。その間担当している学習者に連絡をとる時はとてもドキドキしました。「仕事は順調にできているのだろうか。解雇されてない?」「日本語能力試験を受けると言っていたけれどひとりで大丈夫?」元気な声が聞けたり、メールが返ってきたりしたときは正直ホッとしました。



そして2020年6月19日ようやく開催できた日本語学習委員会は、ピンと張り詰めたものでした。各チューターに「今の思い・再開にあたって等」自由記述してもらい集約し共有していたとはいえ、長期の休止から再開にこぎつけるには大変なエネルギーが必要でした。コロナという未知のウイルスに対する不安はそれから数カ月たった今よりもはるかに大きく、一步を踏み出すのに勇気が要りました。自身の年齢や健康状態、家族の意向等を考慮しどうするか、様々な葛藤があったことは事実です。いざ再開してみると不安よりもレッスンすることの喜びの方が大きく、久しぶりに顔を合わせると長い空白期間がうそのように埋まったように感じました。異国で頑張っている彼らを何とかサポートしたいという思いが以前より増しました。それから順調に進んでいきましたが、新年が明けると共にまた感染が拡大。今後もレッスンの休止・再開を繰り返していくのでしょうか。一日も早い収束を願うばかりです。

異文化 相互理解 事業

～事業企画委員会からの報告～

「ゼロから始めるベトナム語講座を振り返って」
コロナ禍による規制の中で無事に終了した「ベトナム語」講座(受講生 12 名)の講師にまつわるエピソードを紹介したい。

“講師探し”は事務局をお願いしているが、TIFA 挙げての人脈をたどり紹介していただけそうな人物を探し当てることから始まる。今回は過去に TIFA で講演された某大学のベトナム通の教授に依頼したところ、幸いにも教授のゼミのベトナム人で日本語が堪能な女性留学生を紹介いただき、何とか開講できた次第である。講師には、本事業の趣旨や目的を通して本講座の位置付けを理解した上で講義に臨まれたようで、ほとんどの受講生からは講義は素晴らしかったとの反響があった。講師からは、「初めはどのように教えればよいのか悩んだが、毎回の講座を通して、『教える立場ではなく自分が教えられる立場であったらどう教えて欲しいか、どう教えられたら分かりやすいか』が分かってきた。この講座を担当して自分もたくさん勉強でき、2ヶ月の短い間だったが成長した自分に気づいた。本当にありがとうございました。」とのコメント。講師としての役割を見事に果たされたことに感謝したい。4月に神戸の商社に入社、社会人になる彼女に益々の活躍をとエールを送りたい。



議員連盟 との 交流会

～宝塚市国際交流協会との 意見交換会報告～

宝塚市国際交流推進議員連盟代表 浅谷亜紀

協会の皆様には、日頃より宝塚市の国際交流、国際協力、国際理解等ご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

今年度は、どの委員会におかれましても、コロナの影響で活動がままならない中、できる限りの力を尽くそうと創意工夫をされ、また、この困難を克服したあのご準備を着々となさっておられるお姿に、皆様のボランティア精神のすばらしさを感じました。まさに、このような時だからこそ、次に向けた準備の期間であると前向きに捉える精神が必要であり、私たち議員も共に未来に向けた活動の準備を手伝わせていただきたいと思います。報告してくださった方々は「20 年間」「30 年間」ずっと協会に関わり続けておられるとのこと、到底簡単に真似できるものではありません。支援し続ける意欲を持ち続けておられるのは、ご自身のすばらしさに加え、当協会の温かい組織風土が織りなすものであり、これからも変わらずあり続けていただきたいと思います。

意見交換では、コロナ禍で生活相談に来られる方々の困難な状況も紹介され、市で出来ることも広げていかねばなりません。また、協会の活動における財政面の厳しさも伝えられました。当センターが駅に近く便利な立地であることから、貸室として利用しみんなで支援して参りましょう。

今後も、このような会を通じて多くの議員が理解を深め、協会の活動を応援して参りたいと存じます。





やさしい日本語を学ぼう！

「やさしい日本語」のはじまりは1995年阪神淡路大震災である。その後、生活者のための「やさしい日本語」へと進展していき、外国人労働者の増加を受けて「やさしい日本語」が国や自治体で注目をされて来た。日常の使用言語について定住外国人に調査を行ったところ、英語44%、日本語64～70%という結果が得られて、「やさしい日本語」がますます重要視されるようになった。

今回、事務局の職員研修会に参加したスタッフやボランティアの方々、市役所の職員、同時期に行われた日本語学習委員会研修会の担当者に感想などを寄せて頂いた。



～「やさしい日本語」研修会を企画して～



今では「やさしい日本語」も広く知られるようになりましたが、少し前まではその存在は一部の人しか知りませんでした。その頃はTIFAでも外国人対象の事業なのにチラシに書かれているのはフリガナをふった難しい日本語と英語でした。TIFAを利用する外国人は英語を話さない人も多いのにこれでは内容がしっかり伝わらないのではと感じていました。そのような時に「やさしい日本語」の事を知り兵庫県国際交流協会で研修を受けました。そしていつか必ず「やさしい日本語」研修をTIFAで行いたいと思うようになりました。

今年、ついにTIFAで研修を行うことができました。講師は神戸大学名誉教授の水野マリコ先生。先生の研修は実践的な事で定評があります。研修で使う題材を私から提供することになりましたが、いざ教材になるものを集めるとどのような物がいいのか選ぶのに苦心しました。最終的にTIFAのチラシやお知らせ、行政のお知らせの中から選びました。参加された方々からは身近な題材で今後に役立てそうだと感想を頂きほっとしました。

この研修が少しでも「やさしい日本語」の普及に役立てばうれしく思います。（事務局 小原恵美子）

～感想～

★研修会に参加して、外国人にもわかりやすいように工夫し、簡単にする日本語、それが「やさしい日本語」であるという講師の言葉と事例に納得しました。が、その後、グループワークとして与えられた文章を実際に工夫し、簡単な言い回しを見つけるのは大変な作業で、やさしい日本語の難しさを実感しました。今後、TIFAとして外国人支援の為に生活相談、花みずき会会合、民間大使事業、事業案内のチラシづくり等々に役立つ研修でした。（加藤啓子）

★やさしい日本語は、もともと、役所の出される日本語が外国人には難しすぎて理解できないことが指摘されてきたことが、発端ではないかと思います。現在は多言語化が推進されてきて、この問題の解決のために、さまざまな方法が検討されてきています。やさしい日本語への書き直しの訓練もあり、参加してよかったと思っています。（木原正宣）

★研修に参加し、外国人は切実に日本語を使いたい事を知り下手な英語で話していた私にはビックリでした。外国人増が続き、特に災害から命を守る為にも分かり易い日本語作りは肝要です。例えば地震等が起きた際に逃げる避難訓練等においてはやさしい日本語は外国人や子供、老人にも不可欠です。国際交流の原点はお互いの意思の疎通に有る事を銘記すべきです。（大世古健治）



★やさしいには「易しい」と「優しい」の漢字がある。兎角、世界では難解な日本語。又日本人は難しく話す事がステイタスの誇示と勘違いするくらいが。そこで考えなければならない事は外国人の立場に立ち、相手が何を考え求めているかを察知・理解して会話をする事だ。その為には易しい単語・易しい言葉・易しい表現こそが、優しい絆・人間関係を生み、国際交流が育つのではないのでしょうか。（藤本由利子）

★外国人との意思疎通の必要に迫られ生まれた「やさしい日本語」は、外国人にも日本人にも役立つ「易しい」「優しい」日本語なのです。①文章を短く②伝えたいことを最初に③漢語より和語④擬音語・擬態語は避ける⑤尊敬語・謙譲語を使わない⑥書き換えた文を客観視するなどを学びました。（井上明子）

★英語より日本語がわかる外国人の割合が多いということに驚いた。課題に取り組んで実際に言い換える事の難しさを感じた。文の長さや、文節の切れ目など注意しなければならないことに気づかされ、「わかりやすく話す」へと広げていき円滑なコミュニケーションができるようにしていきたい。（山口明美）

★課題文(TIFA のチラシ)を与えられ、やさしい日本語化に挑戦しましたが、「文を簡略化しつつ情報を正確に、そして公的文書としての品位を保つ」ことが意外に難しいものだ実感しました。どんな点に優しい工夫をすればやさしい日本語表現になるのかを改めて学びました。（岸本夏実）

★『避難訓練』という単語は「台風や地震の時逃げる練習をする」とやさしい言葉で説明しながら文章の中でどのように使うのかを理解してもらわなければなりません。分かりやすく説明をして頂いたので、今後この研修が生かせるだろうと嬉しく思っています。（城戸ますみ）

★日本語には敬語（丁寧語、尊敬語、謙譲語）、婉曲表現等が多く使われます。外国人にとって日本語を分かりにくくしてしまいます。研修会では伝えたい事を短く、簡単な言葉で、時には内容を補足して表現するという事を学びました。日常の様々な場面でやさしい日本語が必要とされます。（松崎由美子）



★外国人の相談に当たる際、母国語しか話せない中国人、ネパール人、ベトナム人の相談が増える昨今、やさしい日本語が重要なキーポイントになって来て、常に相手のバックグラウンドを理解し、やさしい日本語での交流を心がけることが出来たらと思います。（伯井睦子）

★コロナ対応策を講じた会場で、フェイスガードをつけた先生からのレクチャーがありグループごとに課題に取り組みました。外国人に伝えるためには、表現の簡素化だけではなく、文化や状況の背景を補足説明することが必要というお話が「目からうろこ」の思いでした。（北村鮎子）

★「英語もできないけれど多文化共生のために私に何ができるのか…」と戸惑っていたところ、やさしい日本語研修を開催されると伺い、参加致しました。やさしい日本語の需要の高さに驚くとともに、これならば私もできるかもしれないと思い、11月頃より、市ウェブサイト等での活用を始めました。宝塚の情報を外国人の方に伝えられるように取り組んでいきたいと思っています。市ウェブサイトをご覧ください。（市文化政策課 小西理穂）



★日本語には、複数の意味を持つ言葉がある一方、同じ意味でも複数の言葉があります。これを、日本語に不慣れな外国人が理解することは大変難しいことです。故に、私たち日本人が多数の語彙の中から簡単明瞭な言葉、フレーズを選んで教える必要があります。「やさしい日本語」で外国人と話すことは、日本人にとって意外と難しいことかも知れません。

（日本語学習委員会研修会参加 諏訪啓子）

宝塚市国際交流協会(TIFA)のホームページが全面リニューアルしました。トップ画面は必要な情報がひと目でわかる構成。お知らせのほか、イベント情報とギャラリー情報は写真入りで検索しやすく、NGO団体の活動も動画で生き生きと紹介しています。

TIFAで学びたい方や活動したい方は必見！また市立国際・文化センター内のギャラリーや会議室の様子を動画で見られるので、下見なしでも安心して予約できると好評です。TIFAのことがまるごとわかる新サイト、この機会にぜひチェックしてみてくださいね。 ST

TIFA外国人支援基金 寄付のお願い

TIFAでは皆様からの寄付を受け付けています。
皆様からいただいた寄付は外国人支援基金を創設し、基金として積み立て、外国人支援事業や多文化共生を進める事業で大切に使用させていただきます。
詳しくは(特)宝塚市国際交流協会 事務局へお問い合わせください。

事業のご案内

- ◎国際化や国際理解に関する資料・情報などの収集、講演会開催
- ◎外国人来訪者向けのホームステイやホームビジットの受け入れ
- ◎外国語の学習、翻訳、通訳・ガイドなどの活動
- ◎外国人生活相談・日本語学習支援
- ◎外国人市民や海外の都市との交流の実施
- ◎ニュースレター(令和3年度より隔月)とTIFA機関誌の発行

募集しています

- ◎会員を募集しています。 入会金不要
- 年会費 個人 2,000円
- 団体 5,000円
- 法人 10,000円

◎次回の機関誌50号への皆様の投稿をお待ちしています。
ホームステイや海外での体験や身近な国際交流にまつわる出来事など、700字程度でどんどんお寄せ下さい。

編集後記

「共生社会の実現に向けての国際交流」はTIFAの長期的展望です。
機関誌49号が目標達成のために新たな発想と活動に役立つことを願います。

編集委員

石原美生子 奥田啓子 加藤啓子
寺本早苗 徳田潤 杉本和子
福家清美 山本敬子

発行者



(特)宝塚市国際交流協会(TIFA)
〒665-0011 宝塚市南口2丁目14-1-3 サンビオラ1番館3F
(宝塚市立国際・文化センター内)

TEL: 0797-76-5917

FAX: 0797-76-5918

(水曜を除く10時～18時)

公式サイト <https://www.tifa.be>



～無断転載を禁じます～